

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 26 日作成)

委員会名	建築生産自動化小委員会	主 査 名：新井 一彦
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (建築生産運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	・ 建築工事における次世代ロボットの活用技術に関する調査研究を行う ・ 第 15 回建築施工ロボットシンポジウムの企画・開催 (2004. 1)	
委員構成 (委員名 (所属))	新井一彦 (テクノウェーブ)、椎名國雄 (東海大学)、汐川 孝(大林組)、篠崎 徹(戸田建設)、玉木欽也(青山学院大学)、寺井達夫 (千葉工業大学)、星野春夫 (竹中工務店)、前田純一郎(清水建設)、眞方山美穂(建築研究所)、三浦延恭(国士舘大学)、室 英治 (イーエムエンジニアリング)、森 正人 (大成建設)、吉武亮二 (フジタ) 五十音順	
設置 WG (WG 名：目的)	・ 次世代ロボット活用技術に関する WG ・ 次世代ロボット技術の有効活用に関する調査研究を行う	
2003 年度予算	70,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	委員会開催：9 回 (4/22、5/20、6/26、8/25、9/29、11/4、11/25、1/29、3/15)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) ①次世代ロボット技術調査研究報告書一次世代建築用ロボットの実用化に向けてー(2003 年 10 月：WG の成果) 学会図書室で報告書保管。(閲覧可能) ②第 15 回建築施工ロボットシンポジウム開催(2004 年 1 月 29 日)：参加者 75 名 ・ 本シンポジウムにおいて、WG が行った「次世代ロボット技術調査研究」の成果を報告した。 ・ 特別講演として建研の井上波彦先生から「これからの構造物システム (高知能建築構造システムの開発)」と題して、知覚や知能、駆動部を持った新しい構造物の研究成果について講演頂いた。 ・ 先端のヒューマノイドロボット利用技術から実務的なフロアクライミング式タワークレーンの開発適用まで幅広い領域の研究発表 (10 件) があり、各テーマで活発な意見交換が行われた。 ○ホームページでの公開の予定なし。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) ・ WG において報告書の作成ならびにシンポジウムでの報告を行った ・ 研究発表件数は 10 件となり、密度の高いシンポジウムを予定通り開催することができた。 ・ 上記のことにより、目標を達成できたと自己評価する。
その他評価すべき事項	